

改めて、おはようございます。最初ということなので、私も緊張していますけれども、皆さんも公務員になって初めてのこのような研修会ということですが、できればリラックスしていただきながら、上着でも脱いだりして、気楽に、あまり緊張した顔をしないで話を聞いていただきたいと思います。私はふだん、講師というようなことをしている人間ではありませんので、日頃やっているようなことをざっくばらんにお話しさせていただきたいと思っています。

実は不勉強で、事前にきちんと調査してこなくて大変申しわけなかったのですが、先ほど所長さんのところへあいさつしてみて、山ノ内町の職員が 10 人お見えになっているということで、「あれっ、そうだったのかな」という、その程度の認識で今日は来ていますので、ぜひ気楽にお話を聞いていただければありがたいです。

私は、昭和 41 年に高校を卒業して、役場の職員になりました。それ以来、今日まで、今年で 50 年め、55 歳まで職員をやってしまして、その後、退職して助役になって、今は町長に、今年 67 歳になりますけれども、ずっとこんなことだけやっています。ただ、私自身、恵まれているなと思いますことは、同僚や先輩、それから健康に恵まれたなど。そのようなことで 50 年も役場に勤めていられるということだと思いますので、ぜひ皆さん、友達や職場の皆さん、それから地域の皆さん、いろいろな皆さんと仲よくやっていただきながら、健康に留意していただきたいと思います。私は毎日牛乳を飲むだとか、あるいは玄米食を食べるとか、野菜中心の食事をするとか、そのようなことはいっさいしていません。ほとんど勝手気ままに、食べたいときに食べる、好きなことをしていますし、特に私は甘いものが好きですので、だんごだとか、お隣の中野市の三日月パン、砂糖がたくさんついているようなあんドーナツ、それから揚げパン、そのようなものが好きで、だからこのような肥満な体になっています。議会の皆さんなどに何を言うかということ、「おめっちゃのためにストレスがたまってる俺はこういう体型になったんだからな」などというようなことを言っています。町長になったときには 63 キロでしたが、今 80 キロになっています。実は夕べも宴会場を二つ掛け持ちして出ていますから、そのようなことばかりやっていますので、これがすべて町長の仕事ではありませんけれども、どうしても不摂生になっているということです。

レジュメに「恵まれた自然を活かし、自信と誇りの持てる郷土づくり」と、これは私が 3 期めに町長選挙に立候補するに当たってのスローガンとして出させていただいたものを、そのままタイトルにさせていただきました。

最初に言わなければいけませんでした。今年、それぞれの市町村に公務員として採用されまして、おめでとうございます。先ほど山本所長さんのお話にありましたように、これから 40 年近く、それぞれの市町村で働いていただくことになるわけですので、公務員というものはどうしても、堅苦しい部分があったり、あるいは注目されがちになるわけですが、少しは気楽に、仕事をしていただいた方がいいのかなと思っています。

私も、総務課長をやったり、助役をやったり、町長をやったりしていますから、職員採

用の面接や作文を見せていただいて、採点などもを見せていただいています。

私が昭和 41 年に入るころは、長男でも、みんな東京へ出かけて行って、東京の大手の銀行や一流企業へ就職するという時代でした。出来が悪い者は役場か農協か郵便局、地元へ入るのです。私の同級生も役場か郵便局か農協へ入っている者と、それ以外はほとんど東京へ出かけていく。出来の悪いほど親孝行だなという負け惜しみを言っていました。要するに、自分の家から弁当を持って役場へ通う。他の人たちはみんな親元を離れて東京で働いている。負け惜しみでそのようなことを言っていましたけれども、ある意味では長男というものは跡取りだから、家に入らなければいけない。今はそうではないと思いますけれども、私が役場に入ったころは、みんなそのような事であったことと、今日も女性の方が多いわけですがけれども、当時、うちの役場でも、男は入れば、当時は 55 歳が年金がつく年だったので、それまで勤め上げればいい。女は結婚したら辞める。このような、当時の風潮がありました。

私はたまたま、自分のおじさんが町長車の運転手をしていたということもあり、「義孝、就職がねえんなら役場へでも来ねえか、それには公務員試験を受けろ」と言われて、「じゃ、しょうがねえ、受けてやるか」というくらいのつもりで受け、そうしたら、たまたま採用になりました。そのときに言われたことは、女性は結婚するとほとんど退職するから、女性を採用した方がいいということで、ずっと女性を何年か採用していた。それで、女ばかりではいけないから、そろそろ男も採用しなければいけないということで採用されたのが私でした。男で私の上は七つ上でした。その間、女性だけだったのですけれども、結婚しても女性はそのまま残るということになったので、そろそろ男を入れなければいけないという、社会情勢がそのようなことをさせたということもあり、私自身は恵まれた運の良さで役場へ入れました。

余計なことはともかく、私はいまだに、町長の給料がいくらか、はっきり覚えていません。手取りがいくらになっているかも、よく覚えていません。ただ、15%カットしているなということしか覚えていませんけれども。役場に入ったときの最初の給料が 1 万 6,100 円でした。農協が約 1 万 8,000 円、郵便局が 1 万 7,000 円。したがって、役場が 1 万 6,100 円で、一番安いところが役場でしたから、私が一番出来が悪かったのです。そのような中で、このような公務員研修をしました。そのときに、何を見て覚えているかというのと、当時の給料表が 1 万 6,100 円。毎年約 800 円上がって 5 年後には 2 万円を超えます。その年には 23 歳だから、「よし、俺は 23 歳になったら結婚するぞ」という思いを持っていましたけれども、結婚は 30 を過ぎてしまいました。

その当時、1 万 6,100 円の給料と……。私の話はメモしなくても、将来、また何かあったときに確認していただければいいかなと思い、ポイント的なことだけここに書いてありますので、何かあったらそれをまた思い出しながら見ていただければ幸いかなと思っています。2 日間、私も役場の中で研修させていただきました。当時、おじさんのような人がずっと話をしていたという記憶でしたけれども、時の庶務係長という人であったり、総務

課の担当や、それぞれのセクションの課長さんというような皆さんにお話をさせていただいたけれども、正直言って、覚えていることは、1万6,100円で、5年後に2万円を給料が超えるということと、今もちろんありませんが、例規集の中で「男は無精ひげをしてはならない。女は深紅の口紅をしてはならない」、要するに真っ赤な口紅ですね。その二つくらいしか覚えていません。あとはほとんど、いろいろな話は聞いたのですけれども、面倒くさくて、何を言っているのか、役場へ入って、職員になるとともに研修会ということですから、聞いていること、何を言っているのか、その言葉すらわからないというところが正直な状況です。必要なことはやはり、それぞれの職場で専門の、例えば税務なら税務の必要に迫られ、例規集を見て勉強し、住民の皆さんに対応していただければいいのではないかなと思っています。

山ノ内町は観光と農業の町ということで、観光で年間約460万のお客さんにお越しいただいています。私が役場に入って少ししてから、オリンピックを招致するという熱気盛んに燃えているところは、800万人近い、長野県でトップの観光客を誇っていたのですけれども、今は長野市、軽井沢、諏訪に抜かれて4番めになってしまいました。これを何とか、順番はともかくとしても、500万人を超えるように頑張らなくてはいけないということで、私もいろいろと飛び歩いています。

そのような中、うちの方では名誉町民ということで、松本のサイトウ・キネンで指揮をさせていただいている小澤征爾さんに毎年来ていただいて、おそらく、うちの今日来ている職員も中学時代に3年間小澤さんのコンサートを聞いていると思います。毎年来ていただいて、今年でもう30年めになります。小澤征爾さんにそのようなことをやっていただいているということで、今、そのころを思い出している皆さんも、中学のときは小澤コンサートを聞いても、何のことかわからないし、ただ音楽を聞いて、そこで、あとでみんなで合唱してお礼をしていた。その程度で、今になってようやく小澤征爾さんという人はすごい人だなということがわかったと。これは当然だと思っています。

あとは、I O Cの前副会長の猪谷千春さん、現在はI O C名誉委員になっていますけれども、この方は日本で最初にアルペンスキーで銀メダルをとられ、スケートやコンバインドというところではメダルをとっていますけれども、アルペンスキーではまだ猪谷さんしかとっておりませんが、この方も名誉町民です。

それから、蟻川さんという方は、図書館を建てるとということで1億5,000万寄付し、30年間、毎年500万円寄付していただいている方も名誉町民です。

あとは、テレビでたまにご覧になっているかと思いますが、日曜日ですか、「笑点」という番組の、三遊亭円楽師匠、落語の。この方が観光大使。俳優の神田正輝さん、「旅サラダ」というところで土曜日の朝8時からやっています。お笑いのものまねタレントである清水アキラさんは山ノ内の出身の方ですけれども、私は図々しく、ちょうど4年ほど前、「来週、この日1日だけ、珍しく何の用事もないから、誰か観光課の職員、俺と一緒に東京へ行ってくんねえかな」という話をし、「ちょっと、この3人に観光大使でも頼んでみよ

うかなと思ってるんだよ」「受けてくれるんですか」「行って話をしてみなきゃ、受けてくれるかどうか、わかんねけん」ということで、それぞれのところに電話を入れさせていただいて。そうしたら、神田正輝さんはちょうど神戸でロケ中。「町長、何の話ですか」「いや、電話で話す内容じゃねえけどな」、そうしたら、「いいよ、電話で。何」と言うから、「実は神田さん、観光大使を受けてくれない?」と言ったら、「ああ、わかった、わかった。じゃ、委嘱書とか何か、またうちの事務所へ送っておいて」。あの石原プロ、石原裕次郎さんの事務所へ。「神田さん、そういうわけにもならねえな。また来たときに、俺、委嘱書を渡すからな」などという話をしました。

そして、田楽師匠のところへ行きまして「師匠、悪いけれども」と、純米吟醸の4合瓶1本持って行って、「これ地酒だけん、飲んでくんねえ」と言い、話をし、最後に「実は観光大使を受けてくんねえかい。神田正輝さんに頼んだら神田さんはオーケーしたので、師匠、いいない?」と言ったら「ああ、いいよ。わかった、わかった」と。「じゃ、おら方のリンゴやブドウはうめえんで、謝礼は、ブドウとリンゴを、秋になったら贈るんで、それでいいんない?」と言うと、「ええ、まあまあ、はいはい」と。

清水アキラさんの自宅を訪ね、「清水さん、どう? こうなんだ」と言ったら、「ああ、町長、わかった。いいよ。」それで3人とも観光大使をお願いし、町のPRをしていただいています。一昨日も清水アキラさんが来て、地元でものまねショーをやって、にぎやかしていただきましたけれども。

このようなことをしながら、お客さんも、スキー、温泉、スノーモンキーというようなことで何とか、お客さん呼び寄せようということをやっています。ただ、よく千客万来といいますが、私も少しへそ曲がりなところもありますから、「俺は千客万来、1回来たらそれでいいなんて、だめだ。一客再来だ。一度来たお客さんに2度、3度来ていただく。」と。

それから、農産物では、地元でとれたものを地元で消費する、地産地消ということで、うちの方は旅館、ホテルがたくさんありますので、それも理にかなっているところがありますけれども、「地産地消、そんなのじゃだめだ。いかに、地元でとれたものを、首都圏を中心に、いろんな人においしい果物を高く買ってもらって、そうすることによって農家の所得が上がるんだから、俺は地産外消だ」と言って、地産外消ということで、近県や首都圏、名古屋、大阪、それから1年に1回くらい海外へ出かけています。海外へ行っても、山ノ内町長の竹節義孝、などと言っても皆さんに通用しませんから、私は海外に行ったら、「スノーモンキーメイヤー」、それだけしか言いません。あとは観光PRやっています。

ちなみに、少しちんどん屋的なことですけれども、これを着て、それぞれ飛んで歩いています。長嶋茂雄さんが金曜日にお見えになったときに、これを着て一緒に植樹しました。

これは山ノ内の公用車カラーということで、ブルーとグリーンを35歳のときに、生活環境の係長のときです、ごみの収集車を買おうと思ったときに、町の予算で600万円の予算をつけてもらいました。それで、志賀高原へ行くのごみが山のように残っているので、

どうせなら何かうまい方法はないかなと思って考え、4t車を倍の8t車にすれば、ごみも倍、積めるなど。そうしたら、車の値段が900万ということで、300万足りないもので、志賀高原の皆さんに「どうだい、志賀高原をきれいにするんだから、300万、地元で出さねかい」と。「税金を払わせて、まだそんなことを言うんか」と。「俺は志賀のためにやってるんだ。カラスや猿がごみを漁ってるなんていうのは、国立公園なんでみっともねえ。それを解消するには、どうせ志賀高原まで行くのに30、40分かかるんだから、ごみを積む時間が30分だったら、1時間積めば、倍積めるので、きれいになるじゃないかい」。そうしたら「しょうねえや」ということで出していただいた。そのときに、領収書がわりということで、車のボディに、グリーンとブルーの色でラインを入れて、山ノ内町だから山型を入れて、これが領収書がわりということで、ラインを入れました。そうしたら、当時の議会も、時の町長も「なかなかいいデザインじゃねえか。じゃ、町の公用車カラーにしちゃおう」ということで、それを公用車カラーに、なっています。今はトップセールスに行くときにこの陣羽織を着て出かけています。

議会の皆さんから「いや、陣羽織なんていうものは、戦に着ていくもんだ。町長は何を考えているんだ」と言われました。私は減らず口が多い人間ですから、「今どき、自衛官が、中東へ行って陣羽織を着ている自衛官っているかい。富士山の演習場で陣羽織を着て演習をやっている自衛官なんて1人もいないだろう。今の時代しょせんコスチュームじゃないか。」と、平気でそのようなことを言いますから、選挙のたびに苦労しています。

今年の4月1日町制60周年に、広島市の松井一実市長にお願いいたしまして、今こうやってやれるのも、戦争がなかったり、平和であるから、このように研修会をやったり、講義を務めているわけですから、皆さん方、戦争が始まれば徴兵されて戦地へ飛んでいかなければならないことになるわけですから、そのようなことだけは、私も戦後生まれで、戦争の経験はありませんけれども、父親から、満州へ行ってどうだ、北支へ行ってどうだという話をよく聞いていましたので、戦争だけは嫌だな、という、私は非常にその部分にはかなり力を入れています。

それから一昨年、日本創成会議で山ノ内町は消滅する自治体のワースト2だと。ワーストワンが確か小谷村だったと思いますけれども、20代、30代の女性の減少率が72~3%。ですから、将来はもう、結婚適齢期・出産適齢期の人たちが消滅するから、山ノ内町が消滅すると。私は「何を言ってるんですか。460万も、志賀高原や湯田中温泉に観光客が来ていて、農家の皆さんがこれだけ頑張ってリンゴや桃やブドウを作って売ってる。こんな町が消滅するわけないんだ」と。この間も議会議員選挙がありましたから、町会議員の方から「うちの町長はそういったときに危機感がなくてだめだ」とご批判をいただいていますけれども、そのような後ろ向きな話や発想をしてもだめだから、私はできるだけ、行け行けドンドンとは言いませんけれども、積極的に、行政というものは、住民の皆さんが安心して暮らしていただける、そのようなことをしていかなければ。だから税金をいただいているのです。行政というものは、灯台の役目のようなことをしていかなければならない。

住民の皆さんに安心感を与え、光を与えているのが行政だと思っていますので、そのように積極的に町をPRしたり、住民の皆さんに「あれをやろう」「これをやろう」ということをやります。ただ、このような時代ですから、大型事業というものはなかなかやるような時代ではありませんので、私は、保育園1園造るのだったら、耐震補強すれば、1個の保育園分で三つ、四つそれができる、学校1校造るのだったら、耐震補強を充実すれば二つ、三つできると。そこを重点に置きながら、快適な環境を作っていけばいいのだから。首長になれば新しいことをやりたいのですけれども、実は財政的にも厳しいから、負け惜しみでそのようなことを言っているところがたくさんあります。

私は先ほど申し上げた小澤征爾さんなど大変恵まれています。ことしも7月29、30日に小澤征爾さんが山ノ内町に来て、中学の子供たちのためにコンサートをやっただけですし、また小澤さんに「小澤さん、30回めだしさ、昔は中学に1,200人、子供がいた。今は500人しかいない。教室が余ってるから、小澤ルームというような名前にして、小澤さんの記念するようなものを何か展示したらどうだい」と話したら、「町長、ありがとう。感謝しますよ。協力しますよ」と言っただいて、「どうせやるんだったらさ、小澤さん、名前は、小澤ルームなんていうのは俺が勝手な言い方をしているけれども、子供たち500人に名称を募集して、その中から、学校で選んだもの、3点か5点、小澤さん、自分で好きなものを選びっしやいや。そうすると、子供の思いと小澤さんの思いとが両方伝わる小澤ルームになりはしない？」と言ったら、「ああ、僕、それは大賛成だ」ということで、今、学校で準備を進めていただいていますけれども、世界の小澤さんが来てそのようなこともやっただけです。

また、6月27日には歌舞伎の市川海老蔵さん、今年で2回めになりますけれども、来て、植樹をしていただけます。人から見れば、市川海老蔵さんと呼んでくるといって1,000万くらい金を払っているのかというと、ノーギャラです。ご本人、奥さん、それから、團十郎さんの奥さんである母親と、お子さんを2人連れてきます。新幹線代も全部自分で払ってきますし、ホテル代も自分で払っていますし、町の方では長野から志賀高原までの、要するに町の車にチャイルドシートがありませんので、営業車を借りますので、その費用はうちで払い、食事代もホテル代も向こうで払ってもらい、一緒になって飲んで、ショクジは、食べる食事と、木を植える植樹ですけれども、それを両方やらせていただいていますけれども、そのように恵まれていたり、先ほど少し触れましたように、先週の金曜日に長嶋茂雄さんが、皆さん方の世代になると、長嶋茂雄さんに興味はないと思いますけれども、私のころは野球でスーパースターで、本当に憧れの人だった。その方が来て、千葉県の佐倉市出身だから、桜の木を、現役のときは3番ですけれども、監督のときの33番にちなみ、33本植えようということで、長嶋さんと一緒に記念植樹をさせていただきました。長嶋さんには「長嶋さん、おらの方のリンゴの方がうめえんだで、三越、伊勢丹や千疋屋、東京の新宿フルーツパーラータカノで取り扱ってもらってるんだから、今は、リンゴはねえけどさ、リンゴジュース、これを持って行って飲まねえかい」と言って、長嶋さんにリ

ンゴジュースを、「いやあ、ありがとう、ここはリンゴの木がすごいよね」というようなことを言いながらお帰りいただいたところでございます。

また、三遊亭円楽師匠には、6月30日、7月1日と、円楽杯のゲートボール大会、また9月29、30日にもゲートボール大会をやっていただきます。泊まらなければゲートボール大会に出られない。そして、ゲートボールに参加しなければ、寄席、落語を聞けないというようにしています。それでも600人くらい集まるわけですから、大したものだと思っています。

そのようなことをさせていただいたり、神田正輝さんに、「神田正輝カップというスキー大会を、神田さん、いいね」というようなことで、スキー大会を3月にやっていただきました。そのようなことをしながら、できるだけ町を大いに売っていきたいという、これが私の一番の務めですので、積極的にやらせていただいています。

雑談的なことをたくさん話し、大変すみませんでしたけれども、仕事の心構えということで、どうしても公務員は、条例や予算を基本としたり、それから前例踏襲、前任者がやったことをそのまま踏襲する、したがって、前の書類を見てそのようにやる。これが公務員の基本になります。しかし、私は若いときから、条例や予算などというものは、時代のニーズで変えればいいのだと。予算がなければ、補正予算の措置をすればいいのではないかというようなことを平気で言いながら、先ほどの公用車の話もそうですけれども、なければ寄付金をよそからもらってくるなど、いろいろなことをしながら、自分の思いを通すようなことをしてきました。

それはやはり、同僚や先輩、上司にも恵まれたからそのようなことができたのだろうとは思っています。皆さんを説得する、自分がこの町をよくしたい、こうすれば住民の皆さんに喜んでいただけるだろうという思いを持って仕事に当たっていき、その中でいろいろなことを考えてほしいのです。私はよく、ちょっと思いついたら、ささっとメモをします。メモをし、どのようにすればその仕事ができるかということを考えたりしながらやっています。したがって、今も、職員は大変な部分もたくさんあるのですけれども、自分の家で話をしていて、あるいはテレビを見ていて、ちょっと気がついたことをちょこちょこっとメモして、次の日に、課長、係長に「俺、こういうのをこういうふうにやりたいんだけど、どうだや」と、このようなことをぼんぼんやっていますから、職員は通常の業務の他に、そのような余計な仕事に振り回されている部分もたくさんあります。そのときによく言うことは、「仕事なんていうのは嫌々やるな。自分で楽しんでやれ。そうすれば、いろんな知恵やアイデアも出てくれども、嫌嫌やれば、ミスや手抜きが出てくるぞ。どうせ同じ給料をもらって仕事をやるんなら、楽しんでやれよ」と。自分の気持ちの持ち方で、そのようなことはどうにでもなるだろうと思いますし、また、先ほどから言っているような、条例や予算に縛られ、「条例上こうなっているからだめです」と住民を説得することは一番楽です。その中で「あ、これは条例を変えた方がいいな。要項を変えた方がいいな」と思ったら、変えればいいのですから。それは絶対変えられないものではありませんし、予算もそ

うしてやっけていて、だめだなと思ったら補正予算を組んでもらえばいいし、あるいは流用してもらえばいいのだし、先ほど言ったように、私のように、金を出させてしまえと図々しく寄付をもらいに行くという手もありますけれども、これはどこでも通用するとは思いませんけれども、そのようなことをしながら、やっていただく。

今言ったように、自分が「これがいいだろう」と思うことをやっていけばいいのですけれども、そのような中で、例えばテレビを見ていて、うちのネマガリタケ、まったく珍しくありませんけど。どちらかというと、表現は悪いですけども、貧しい、貧乏人が食べるのがネマガリタケ、山菜です。ところが、今では貴重品のように言われていますけれども、飽食の時代であふれ返ってきているから、逆にそのようなものが見直され、高級品のように思われています。

たまたまテレビの『秘密のケンミンSHOW』で、ネマガリタケとサバ缶と一緒に煮て食べる、これが珍しいということで、みのもんたさんと久本雅美さんの番組ですが、私はそれを見ていて「あれ？こんなのがそんなに珍しいの」と。翌日すぐ職員を呼んで、「おい、これで何か、お土産品になるようなものを考えてみてくれや」と話をしました。そうしたら、うちの職員がけっこう頑張ってくれまして、缶詰にして、1缶1,000円で売り出したのですけれども、これが今また非常に人気でして、もちろん品切れ。もう今年の方はありませんけれども。これも去年売り出すときに、ちょうど半月前に、神田正輝さんに携帯電話を入れ、「神田さん、8月2日の土曜日『旅サラダ』があるんだけどさ、おらのとこのサバタケがその日、発売日なんだ。できればそこで食べて宣伝してくんねえ？」などという話をしたら、「町長、何を言ってるの。『旅サラダ』なんて、もう4カ月、6カ月前まで何をやるか決まっているんだよ。そんな、2週間前にそんなことを言ったって、だめだめ」と。「そこを神田さんの顔で頼むわ」と。電話で言ったのが木曜日でした。土曜日に生放送ですから、金曜日に大阪に局入りするので「町長、約束できるのは、俺、明日は金曜日だから大阪に行ったら局の皆さんに話をする。そこまでだよ。」「まあ、よろしくお願ひ。」と言って電話を切ってしまったのですけれども、月曜日になったら「神田さんの強い意向で、急遽、2週間後にそれをやることになりましたので、協力してください」という連絡がきました。

それで、大阪から取材陣が来て、事前に志賀高原や、缶詰工場を撮ったりし、放映して、スタジオで食べていただいたのですけれども、そうしたら、その日だけで5,700缶売れてしまいました。やはりテレビの力というものはすごいなと。8時から9時半までやっていますので、9時40分ころに携帯に電話して「ありがとう。知り合いで欲しい人がいたら、また言ってくんない。俺、また送るからな」ということで、本人に電話を入れ、「あれでいいですか」「いやいや、ありがとう。ありがとう」と言ったら、本当に今言ったように5,700個も1日で売れてしまったのです。その謝礼は1,000円のサバタケ缶を6本、お礼状を書いて送りました。そうしたら、よその、名前は言いませんけれども、山ノ内で10分以上それをやったから、「じゃ、うちも頼みに」ということで、頼みに行かれたようです。そう

したら、頼みに行った人が言ったのだから間違いないと思いますが、「いや、4カ月から6カ月先まで決まっているし、簡単には入りません。ちなみに、5分300万円です。じゃ、山ノ内さんは1,000万円も払ったんですか」「俺、1,000円のサバタケ缶を6本、本人に送ったきりで、あとは何もしてねえやな」「何だい、それ。それで通っちゃうのかい」と職員も一緒にテレビに出て、サバタケを説明して、山ノ内町を大いに宣伝してもらいました。非常によかったなと思っています。

人間は第一印象が大事ですから、あいさつ、それから笑顔で人と接していただき、そして公務員という特性がございますので、やはり「優しい一言、一工夫、一手間」、に心掛けて仕事に当たっていただければ。そうするといろいろなものが出てくると思います。住民の皆さんは、初めて役場へ来る、あるいは一生に何回かしか来ないという人もたくさんお見えになります。私たちは、そこが職場ですから、毎日、普通にどなたでも対応していますけれども、受ける人によっては、「非常にてきぱきと」というようにとっていただける方もいれば、「おらの税金で給料をもらっているくせして横柄な態度をとってる」と思われる方もいますので、できるだけ、そのように心がけ、住民サービスを基本にしながらか、やっただけであればありがたいと思います。やはり税金をもらっているのですから、住民が暮らしやすいように、企業が営業しやすいように、行政というものはあると思っています。民間企業ならば、自分の会社がもうけるように、それは消費者のニーズに沿って売れるものを作ればいいわけですから。行政とはそうではありません。

したがって、行政の公平性と税の公平性というものは、税金をたくさん納めている人は意外に行政の恩恵は受けません。逆に、税金を納めていない人ほど、福祉や医療といったところで行政の恩恵を受けます。税金をたくさん納めている人は、二言めには「俺は税金をでかく納めてる」とおっしゃられます。私もいつも言われています。しかし、それは今のシステムがそうなっているのだから、そのようなことをいろいろ言うことはない。例えば1,000万円の税金を納めていても、選挙権は1票しかありません。生活保護で町の行政から生活費を支給されている人、この人も選挙権は1票です。うちは先祖代々、300年、400年続いている家柄だというお宅の当主でも選挙権は1票しかありませんし、去年引越してきた方でも選挙権は1票。これが行政なのですから、それを、税金をたくさん納めているとか、長年どうのこうのということで、行政に文句を言っていたり、いろいろ、あれをやれ、これをやれと言っていたり、こと自体が私は少し不合理だと思っていますので、そのようなことは、はねのけます。きちんと対応していかなければいけないのが公務員ではないか。それは家庭でも職場でもそうでしょう。冒頭に申しあげましたように、健康が第一です。

そして、行政マンとして「目配り、気配り、心配り」を大切にやっていただきたいと思っています。皆さん、これから何年働くかわかりませんが、これからお勤めになっていく中で、初心を忘れないで。今は意気に燃えて、どこどこの市役所、どこどこの役場へ入ろうとした、そのときのことをときどき思い出していただきながら行政に当たっ

ていただくことにより、住民の皆さんからも好感を持っていただけるのではないかなと思います。お金持ち、あるいは肩書きのある人、そのようなことにあまり左右されず、行政は公平に対応していくことが一番いいのではないかなと思っていますので、ぜひ、皆さん方に心がけていただきたい。うちの町は勤務評定をやっています。A、B、C、本人が自覚する部分もありますし、係長、課長がそのA、B、Cの評価を半年ごとにやっています。半年ごとにその勤務評定をやり、職員労働組合と、「勤務評定は、人事と勤勉手当に反映させる」ということで合意しています。A評価になりますと、20代で課長になるというようなことはありませんけれども、40前後でA評価が続いている人は、せいぜい2年か3年早まるかなという程度ではありますけれども、早く係長になれる、あるいは課長になれるというようなことはあります。

それから、勤勉手当が6月と12月に出ますので、ここをA評価になるとプラス10%、プラス20%、最高で50%ですけれども、プラス α を出すようにしています。それから、C評価になりますと、マイナス10%、20%、最高で50%ですけれども、カットする。それに対しては、Aの人、Cの人に対しては、副町長、あるいは教育長が直接面接して指導する。このようにしながら、「こういうことであなたはCになったよ。だから、今度はこういう点に気をつけて頑張れよな」と。あるいは「こういう点がAで、他の模範になってる。これをもっと伸ばしてやってくれよな」というようなことを言いながら、それぞれ職員の励みを持ち、やらせていただいています。いいか悪いかは別といたしましても、今の町長が町長をやっている限りは、ボーナスをもらえなくなってしまうとか、期末手当の他に勤勉手当が出ますので、勤勉手当の10%、20%カットですから、全部ということは100%あり得ないのですけれども、カットされた人から見ればそのようになりますし、評価されて早く抜てきされたり、勤勉手当がプラスになった人は、なかなか「ありがとう」ということを言われたことはありませんけれども、意気軒昂に仕事を頑張らせていただいているということがあります。ぜひ、皆さん方のところで、そのようなことをやっているところがあるのかどうなのか、わかりませんが、そのようなことである、なしにかかわらず、やはり公務員の精神を大切に、住民のために頑張らせていただければ非常にありがたいと思っています。

皆さん自身がそれぞれの市役所、あるいは町村役場、自分で選んだ道だと思います。いろいろな職種があると思います。銀行に行こうと思えば銀行へ行けたし、あるいはどこか大学に残って講師をやろうと思えばなれたらろうし、同じものでも県職員になるとか、国家公務員になるとか、いろいろなことがあるわけですし、しかし、そのような中で皆さん自身がこの職場を選ばれたわけですので、決して悔いを残さないように、「人生は旅、旅は出逢い」だと言われています。そして、それぞれ「一期一会」、そのときの出会いを大切にさせていただきながら、公務員生活、これからまた結婚されたり、あるいは結婚しない人も最近はふえていますけれども、そのような家庭を築く、あるいは地域の中でいろいろな仲間の皆さんとの交流をするときには、そのようなものをできるだけ大切にさせていただき

たいと思います。

私も、ちょうど 50 年めになりますけれども、正直言うと、おじさんが「行くところがねえんなら役場を受けろ」という程度で受けて。皆さんは、役場を受けるときに、それぞれの公務員試験の、勉強をしたり、作文や面接で、志賀高原あるいは湯田中渋温泉、このような観光の町で頑張ってみたいと、書いてありますし、町民だけではなくて町外の人も採用しています。ただ、面接などでもよく言うのですけれども、観光で頑張ってみたいと言われても、長い役場生活の中で観光にだけずっといるわけではありませんから。福祉や農政など、いろいろなところへ行きますよということはずいぶん言います。それでもいいから頑張ってみようというので、今は私たちの頃とは違い、学校の成績は優秀なのですけれども、なかなか昔のように破天荒な人はいなくなってきたなということは、実感として持っています。

私たちの先輩などは、皆さん想像がつかないような、例えば役場へ行き、夏になったら先輩の皆さんが職場でステテコですよ。上は半袖のシャツで、腹にサラシを巻き、窓口で住民票や戸籍抄本を渡しているのです。フーテンの寅さんのような。私が役場へ入ったころは石炭ストーブですから、お昼近くになると、サンマを焼いたり、味噌汁を煮たりして、それが職場の中でぷーんとにおう。私が役場に入ったころのことですが、今はもう、ここと同じように、皆さんの役所もそうですけれども、そのようなことをやっている人は1人もいませんが、「変なところへ来ちゃったな」と思って。しかしながら、そのようなことをしているうちに今日まで来ているということです。

私の場合には、皆さんも大方、労働組合に入っていると思いますけれども、最初の3年間、県庁の8階に自治労長野県本部があり、市、県、町村からそれぞれ代表が来ます。私はそこへ3年間行きました。正直言って、地方課の研修生になっているのに、将来エリートコースを目指して地方課へ行き、研修から戻ってくると係長になれるのに、なぜそのようなところへ行かなくてはならないのか、「俺は嫌だ」と言ったのですけれども、「おまえはチョンガだし、ちょうどいいから行ってこい」などと言われて送り出されて、3年間、自治労で専従をやってしまいました。戻ってきて組合でずっと書記長をやり、当時、県が委員長、市が書記長、町村が書記次長という。「町村から書記次長が出るのがいねえから、おまえ、ちょうどいいからまた行ってこい」と言うから、「嫌だよ。3年も行ってきたのに、また行くだかよ。そんなの絶対だめだ」と言ったのですけれども、時の県の幹部の皆さん、国会議員の皆さんも入って、どうしても行けと説得され、「ぜひ行ってくれ。いいじゃないか」と言われ、3年も奉公したのに、と思ったのですけれども、それがまた、ある意味ではいい経験になったと思います。その後、今度は長野オリンピックのときにオリンピック課長ということになり、当時、ノイローゼになったり、自殺したり、いろいろなことがあるけれども、「おまえならそういうことになりそうもねえから、オリンピック課長をやれ」という程度で、「へえ」と思って、オリンピック課長をやれるということがうれしく、意気を感じてオリンピック課長を担当しました。これがまたいい経験でした。県や、市町村の

いろいろな皆さんと交流させていただいています。ですから、いまだに1年に1回、長野市、それから白馬村、野沢温泉、軽井沢、山ノ内の当時の担当部課長で飲み会をやったりしています。

また、自分自身の人脈を広げたり、今までの行政で経験できないもの、そのようなことが経験できたなと思っています。ぜひ、その時、その時、自分の人生に前向きに捉え、そして立ち向かっていただき、対応していただければいいのではないかなと思っています。先ほども申し上げましたけれども、やはり忘れてはならないことは、「戦争の悲惨さ、核の恐ろしさ、平和の尊さ」です。私は、後世までそれを守り伝えていかなければいけないと思い、町長になった8年前から広島へ中学生を派遣し、そこで平和式典に参加して、被爆者と、夜、対談をしていただくということを毎年繰り返しています。いつも4人ですけれども、今年はちょうど町制60周年、被爆70周年という年だから、今年は中学生8人行ってもらおうことにしておりますけれども、そのようなことをしながら、やはり戦争のない社会を私たちが守り伝えていかなければならないことが責務だと思っています。

長い人生の中で、私ももう67歳ですけれども、よく使う言葉が「一生青春、一生感動、一生勉強」。自分でやはり、年齢だけではなくて、若いつもりになって物事に向かっていくということが重要だと思いますし、何でもクールなこともいいですけれども、私は今この年になりますと、テレビの歌番組を見ているとほろっと涙が潤んできてみたりしています。やはりそれは、日常的に何かあったら泣くことがいい悪いではなくて、そのような喜怒哀楽を持って人生を生きていくことが大切なのではないかと思っていますし、また、そのような中で、勉強というものは何も、地方公務員法を勉強しろ、あるいは自分の職場のいろいろな法律を勉強しろということではなく、何事にも経験することが勉強だと思って対応していただければいいのではないかなと思っていますので、あまり堅苦しく勉強などということを考える必要はないのではないかと思っています。

「一日一生」という、今日という日は今日しかない、したがって、一日一日を大事にして過ごしていただくことが大切ではないかと思っています。皆さん、歌手は歌を歌うことが仕事ですし、プロ野球の選手はやはり野球をやるのが仕事です。歌舞伎俳優でしたら歌舞伎をやるのが仕事です。皆さんの、仕事とは、公務員として、地域のために、住民のためにそれぞれ頑張ってやっていただくことが仕事です。これから長い人生、いろいろなことがあると思いますけれども、与えられた仕事は、皆さん給料をもらっているのですから、プロだと思い、そして自分の一生の仕事だと思って頑張ってやっていただきたいと思います。人間ですから、楽しいこと、つらいこと、苦しいこと、あるいは病気になること、いろいろなことがありますけれども、そのようなときに、自分だけで悩んだり苦しんだりすることだけではなく、自分の同僚や仲間や家族、いろいろな人と話すことにより、ある程度胸がスーとする事もあると思いますので、絆も大切にさせていただきながら、頑張ってくださいありがとうございます。与えられた11時の時間になりますので、このあたりで私のくだらない話をやめさせていただきますけれども、ぜひ、先ほども申し

上げましたように、自分で選んだ道ですから、自分が納得するように、そして、そのことが結果的に地域の皆さんや、職場の皆さん、住民の皆さん、家族の皆さんに喜んでいただけるように頑張っていたければありがたいと思います。貴重な時間を私の話におつき合いただいたことに、改めてお礼申し上げながら終わらせていただきます。頑張ってください。